

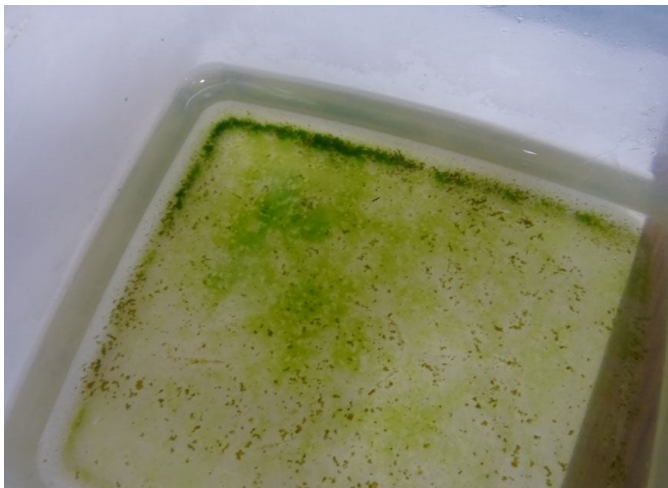
「緑色の水槽の生き物 (3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

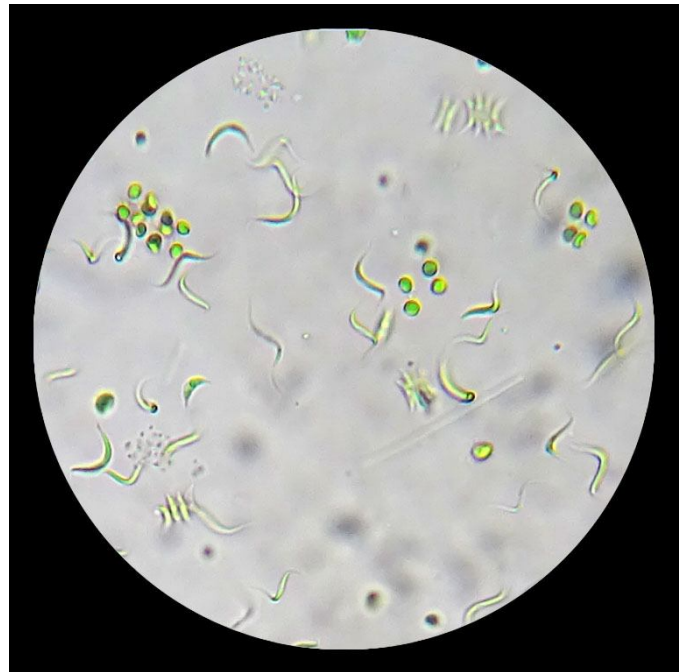
水槽の緑色の水が入った容器を 1 週間ほど放置すると、緑色の藻 (プランクトン) が完全に底に沈み、上澄みはすっかり透明になっていた。



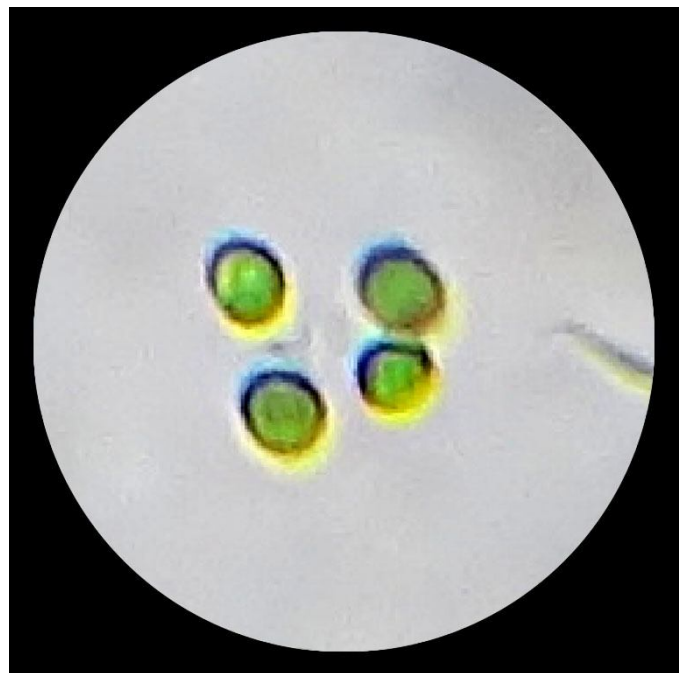
教科書には、メダカ (成体) が、ミジンコ (比較的大型の動物性プランクトン) をまさに食べようとしている写真が載っている。しかし、稚魚はもっと小さな動物性プランクトンや、単細胞や数個細胞の植物性プランクトンも好んで食べるはずだ。私は、それも試してみた。



写真は、稚魚のいる水槽に、容器の底に堆積した緑色のプランクトンをスポイトで入れたところだ。写真ではわかりにくいですが、水の一部が緑色になっている。さっそくそこに向かってきて、そのプランクトンを食べる稚魚も 2 匹写っている。



もちろん顕微鏡でも観察してみた。イカダモの仲間、大量のミカヅキモの仲間、ミドリムシの仲間などに加え、枝豆を 4 個並べたような植物性プランクトンがたくさん見られた。



これは「ヨツメモ (目)」と呼ばれる、緑藻類 (綱) の一種である。漢字では「四つ目藻」、ラテン語では *Tetrasporales* (テトラスポラ) となる。4 つの丸い緑の細胞 (定数群体) が、ジュンサイのように、寒天状の基質に覆われているらしいのだが、顕微鏡の倍率や光源をどう調整しても、その寒天質は見えなかった。4 個の定数群体が多いが、時には 8 個や 12 個もあった。400 倍で見ると、とても美しいので、このプランクトンだけを取り出して、純粋培養させてみたい。きっとすばらしい教材になるだろう。